
俺から君へ。一番大切な想い

j

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺から君へ。一番大切な想い

【Nコード】

N 6 2 6 6 G

【作者名】

j

【あらすじ】

主人公は二重人格の女の子【姫島響】ひめじまきょうですが、響は自分が二重人格の事にきずいていません。しかし、その響の二重人格の人格は男の子で、この物語りはその男が響に恋をしてしまう話です。

一番大切な想い（俺ヒジヨン）（前書き）

意味がよく分からなかったらすいません。

一番大切な想い（俺ビジョン）

俺は君の秘密を知ってるよ。

仕草だって、性格だって知ってる。

だって、俺は君が好きだから。

でも・・・これは叶わない恋でもあって、許されもしない恋だから。

・・・許されもしない恋だから、君は俺を知らない。

俺を見てくれない。

俺の声も届かない。

こんな虚しい恋、辞めたいと何回も思った。

でも・・・無理だった。
忘れられなかった。

君が男とはなしていると、すごくイラついた。

だから、俺の物にしたいと何回も思った。

でも・・・無理だよ。

だって、君は俺だもん。

それに、俺は君だもん。

俺と君は2人で1つであり、2人で1人でもある。

君は、きずかないよね。

だって、俺は君の中のもう1人の君。

君は二重人格。

表は君で裏は俺。

俺はこの世界にいない人間。
いや、人間ですらないかもしれない。

じゃあ、俺は何？

感情・・・とでも言うのか？

それとも、人間になれなかった可哀想な者？

そんな者に恋をする資格があるのだろうか？

資格はなくても、俺は君に恋をする。

しかし、二重人格とは、いつかは、なおるものだから、俺はいつか消えてなくなる。

それまでは、君を好きでいさせて下さい。

叶わない恋だと知っています。

許されもしない恋だと知っています。

虚しいだけの恋だと知っています。

それでも・・・

俺は君を愛しています。

俺が消えてしまうまで、愛し続ける事を誓います。

本当は、君にも愛してほしい。

でも、それは無理だから、俺がたくさん愛すから。

愛し続けて、俺が消えたら必ず人間に生まれて、君とめぐりあって恋をしたい。

でも今の俺じゃ君を守れない。

守れないかわりに、俺の声を聞いてほしい。

君は、一人じゃないのになんで人の温もりを探すの？

なんですぐに出会い系サイトに入るの？

俺は近くにいるのに。

心でいつも君を抱きしめているのに。

そんなの・・・嫌だよ。

俺が温めてあげるから、俺が生まれ変わるまで待っててよ。

でもそれまでは、もう少し待ってて・・・ね？

俺の一番大切な人・・・姫島 響【ひめじまきょう】

一人の男との出会い【響ビジョン】

2009年1月1日、私の体温はからからにかわいていた。

人の温もりが欲しくてたまらなかった。

だからいつもの様にケータイを開いて出会い系サイトにアクセスした。

『姫島 響、16歳です。年齢は関係ないので、すぐに会ってくれる人よろしくお願いします。』

そう掲示板に書いて顔写真を載せると、すぐに男は絡んでくる。

「ピリーン」

「またきた。」

『響ちゃん可愛いね！！俺、23歳なんだけど会ってくれる？』

ほとんどのメールがこんなような内容だ。

でも私はそんなの構わない。
人の温もりが欲しいから。

『いいよ！！すぐに会おう。今日の夜は駄目？』

『いいよ！！全然OK！！』

ほとんどの男は夜と出すとすぐに興奮していい返事をくれる。

それでいつも男と会うのだが、男と会ってから朝までの記憶が消えてる事もあった。

記憶が消えてるときは温もりなんか感じなかった。

それより、本当に私は男と会ったのかと疑問に思う時があった。

しばらく考えてるとまたメールがはいった。

『今日の夜より今から会わない？』

『いいよ。今から会おう。』

そして私は約束の場所にむかった。

「響ちゃん!!」

私が振り向くと優しくそうでかつこいい人がこっちにむかって走ってきた。

「可愛いね!!俺は【真辺^{まなべ} 友也^{ともや}】じゃあ行こうか。」

「うん。じゃあどこのホテル入る?」

「あはっ!!響ちゃん、気がはやいねっ!!まだ昼間なんだからゲームセンター行こうよ。」

私は手を引かれてゲームセンターについていった。

「ねえ、友也あ、はやくホテル行こ？」

「じゃあ、あのプリクラとったら行こう！」

私達はプリクラをとってホテルにむかった。

「響ちゃん、俺の友達も来てるから一緒にいいかな？」

「えっ！？駄目だよ。」

「まあ、いいじゃん。おーい、いいよ！！」

友也が合図すると男が二人出てきた。

「響ちゃん、絶対楽しいからさ。」

三人がせまってきた途端、急にめまいがしてきた。

「あ．．．れ．．．？私．．．。」

『ボタン！！』

私は倒れて気を失ってしまった。

私が起きた時にはもう朝で自分の部屋のベッドで寝ていた。

悲しい現実【俺ビジョン】

また響が出会い系サイトにアクセスしていた。

響は可愛いからすぐ男がよってくる。

悪い男が来た場合、俺は響と入れ替わって俺が表にでて響には気を失ってもらっている。

温もりが欲しいと言うのは、響の望んだ事だから普通の男が来た場合とはとめない。

でも悪い男が来た場合は、俺が響を守る事にしている。

「ピリーン」

またメールか・・・

二人が会う約束をした時、俺はいらついついた。

この男も腐ってやがる・・・

「ピリン」

またメールがはいった。

男からは今日の夜より今から会わない？と来ていた。

俺は一瞬、殺意が芽生えた。

はあ？ふざけんなっ！！彼氏ずらすんじゃねえ！！

「いいよ。」

響がいいよとメールを返信してしまった。

こいつ、絶対危ない奴だ・・・。

会ってしばらくして、そいつの本性が出た。

三人の男に響が襲われる！！

響！！ごめん。しばらくまた眠ってて！！

俺は響の表に出た。

「あれっ？響ちゃん、どしたの？」

「響ちゃん、ってなれなれしく呼ぶんじゃないねえ。
くそ男共が！！」

「何言ってるの??」

「てめえらみたいなのが一番たち悪いんだよ！！」

俺は三人をツボを突き気を失わせた。

俺はそのまま家に帰って、ベッドに横になり、響と入れ替わった。

響、気をつけなきゃ駄目だろ？

俺が人間だったらなあ・・・。

いつでも抱い・・・って俺何考えてんだ！！俺のバカ！！

でも・・・本当、俺が人間だったらなあ。

ごめんなあ・・・響。

「うーん。」

響が寝返りをしたらポケットから麻薬が出てきた。

響・・・。

・・・もう薬はやめようよ。自分を傷付けるのはやめようよ。

俺は響が望んだ事ならなんでもするよ。

でも、薬は駄目だよ。

ごめんね。

また俺は響と入れ替わってポケットにはいつてた薬を全て捨てた。

もう、駄目だよ？

響、お願いだから自分を嫌わないで・・・。

・・・って、俺は響の母さんかよっ！！

まあ・・・いいか。

響、俺、もう疲れたから寝るよ。
おやすみ、響・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6266g/>

俺から君へ。一番大切な想い

2010年10月10日06時39分発行